

平成 2 4 年度

北栄町教育委員会の事務に関する外部評価報告書

北栄町教育行政評価委員会

はじめに

この報告書は、北栄町教育行政点検評価委員会による平成24年度北栄町教育委員会の事務に関する点検及び評価である。この評価及び点検は、平成19年に改正された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の第27条の2項に基づき北栄町で平成21年度から行われている。

北栄町は平成17年10月に二つの町が合併し、平成19年7月には北栄町教育委員会が「北栄町教育ビジョン~子どもから高齢者まで 学びを通して夢を実現する」を制定した。

上記の法律改正に基づき、まず平成20年度以降には北栄町教育委員会内部による点検及び評価が実施された。これは町のビジョンの二つの基本目標である、「豊かな自然と優しい地域の中で、子どもがすくすくと育つ環境づくり」と「町民みんなが、人権を尊重して仲よく暮らせ、楽しく学び、夢が実現できる環境づくり」がそれぞれ4つと2つの施策の柱から構成されており、平成24年度については、その6つの施策の柱「1.乳幼児が安心して、すくすく育つ家庭」、「2.地域での活動や地域人材の活用で、町の自然や歴史、文化、人を学び、町に愛着を持つ子ども」、「3.仲よく遊び、学び、他人の気持ちを思いやる心根を持つ子ども」、「4.子どもが意欲を持っていきいき学び、基礎・基本を身につける学校教育」、「5.人権を尊重する気運が社会に根付き、豊かな人間性や社会性を身につけた人があふれる町」、「6.学習やスポーツに積極的に参加し、文化や芸術に親しみ、心身ともに健康で、自らの夢を実現させる人があふれる町」を推進するための事業について、それぞれA、B、C、D、Eの5段階で評価された。ほとんどの事業計画はCとされ、全体としても指標通り達成できたと評価された。

平成20年度の内部評価以降、北栄町教育行政点検評価委員会による外部評価を平成21年度の3回に続き、平成22年度に3回、平成23年度に3回、平成24年度に4回実施した。当委員会では、平成24年度に評価対象事業として、平成23年度以降は全47事業の評価を行った。

評価基準は、平成21年度と変わらず次の5つ「事業が継続的なものであったか」、「対象をできるだけ広くとらえていたか」、「参加者は事業に満足できたか」、「事業実施の予算的裏付けがあったか」、「当該事業がビジョン実現に貢献したか」とした。

尺度については、平成21年度では内部評価と同じ3段階(A=目標以上に達成できた、B=目標通り達成できた、C=ほとんど、全く達成できない)とした。しかし、平成22年度はさらに細かく評価するために5段階(A=目標を大幅に達成できた、B=目標をい

くらか超えて達成できた、C = 目標どおり達成できた、D = 目標を一部達成できなかった、E = ほぼ全く達成できなかった)に変更した。平成23年度も前年度と同様とした。

これらに基づき全47の個別の事業を評価した。「同日公開参観日の実施」、「サマースクール」、「ゲストティーチャーの招聘」、「ウォーキングのまち北栄町推進事業」、「レインボープラン」、「少人数学級の推進」、「ICT教育活動支援員の配置」、「特別支援教育補佐員の配置」、「小中学生の地区学習会の開催」、「美術展の開催」、「指定管理者まちづくりネットによる大栄分館の管理及び各種事業の実施」及び「ブックスタート事業」の12事業(前年度より5事業増加)は総合評価でBとし、「人権同和教育小地域懇談会の開催」事業(前年度より5事業減少)はDとし、E評価の事業は0(前年度は2事業)とした。他の34事業の総合評価はCとした。

評価点検のプロセスで、委員からは様々な質問や意見、具体的な改善案も提案され、これらに対して詳細な回答等もされた。この度、全事業が3度目の外部評価となった。今後は、個々の事業単位のみならず、全事業を通して町村合併後7年経過してより一層の地域間の差の解消と各事業のPR啓発活動の充実が必要と思われる。

北栄町教育行政評価委員会	会長	野津	伸治
	委員	山田	真由美
	委員	竹信	啓子

子どもから高齢者まで 学びを通して夢を実現する

基本的な考え方

豊かな心と自ら考え行動する力を持ち、
自己実現ができる『人』

めざす人間像（町民像として）

- ・町の自然や歴史、文化、人に愛着と誇りを持つ
- ・命を尊重し、優しさや思いやりなど豊かな心を持つ
- ・生涯を通して、進んで学習し、自己実現を図る
- ・自らの食や健康に気をつけ、体力の増進や精神の高揚を図る

基本的な進め方

豊かな自然と優しい地域の中で、子どもがすくすくと育つ環境づくり

町民みんなが、人権を尊重して仲よく暮らせ、楽しく学び、夢が実現できる環境づくり

乳幼児が安心して、すくすくと育つ家庭や地域

地域での活動や地域人材の活用で、町の自然や歴史、文化、人を学び、町に愛着を持つ子ども

仲よく遊び、学び、他人の気持ちを思いやる心根を持つ子ども

子どもが意欲を持っていきいき学び、基礎・基本を身につける学校教育

人権を尊重する気運が社会に根付き、豊かな人間性や社会性を身につけた人があふれる町

学習やスポーツに積極的に参加し、文化や芸術に親しみ、心身ともに健康で、自らの夢を実現させる人があふれる町

・就学前教育の充実と支援のためのシステムづくりに努めるとともに、親と子どもが共に育つ学習機会を充実します。
・子どもの人権を尊重し、子どもの安心・安全を保障する取り組みを推進します。

・美しい自然の中で、子どもがのびのびと活動したり、地域の中で大人と共に学んだりすることを通して、自然や地域の文化、人の素晴らしさにふれあうことのできる環境づくりに努め、地域の教育力を高めます。

・保・幼・小・中の連携のもと、異年齢間の交流や活動を通して、子どもの仲間づくりや育ちを支援し、学校での人権・同和教育を通して子どもが命の大切さを学びます。
・家庭や地域の中では、子どもの健全育成を推進する教育力の充実を図り、基本的な生き方を身につけさせるとともに、一人ひとりの存在を認め合いながら、自立する子どもの育成をめざします。

子どもの目が輝き、笑顔で学習や活動に取り組み、学ぶことの大切さや喜びを味わいながら基礎的・基本的な内容を身につけ、自ら学び・考え・行動する力を育成する学校教育を進めます。

「部落差別をはじめあらゆる差別をなくする条例」に基づき、人権・同和教育の取り組みを充実し、町民一人ひとりの基本的人権が尊重され、様々な活動や交流等をする中で人間性や社会性を磨き、幸せに暮らせる環境づくりに努めます。

・生涯学習の推進体制を充実し、スポーツクラブや文化活動をする団体等の育成を図り、町民が生涯を通して楽しく学べ、スポーツや文化に親しむことができる環境づくりを推進します。また、町民一人ひとりが自らの健康管理をするため、食育や体力づくりを進めます。
・自らの夢を実現しようとする人を支援し、町民が嬉々として暮らせる安心・安全な町をめざします。

充実した就学前保育・教育の推進と保護者の学習機会の提供

地域の素材を活かし、体験活動などを推進し子どもの育ちがにつながる取り組み

指導方法の工夫・改善の推進と落ち着いた学級で基礎学力の定着

実践に生きる研修の充実と地域づくり

届ける講座の推進と自ら取り組むスポーツ・文化活動

- 【教育総務課】
・認定子ども園における幼児教育に関する指導の実施
【生涯学習課 文化・スポーツ推進室】
・子育て学習講座の実施(認定子ども園・保育所・幼稚園)

【図書館】
・ブックスタート事業
・おはなし会の開催(館内)
・出前お話会の実施(保育所・福祉施設など)

- 【教育総務課】
・職場体験学習(ワクワク北条・ワクワク大栄)
・ゲストティーチャーの招聘(地域人材の活用)
・転入教職員の町内めぐり

- 【教育総務課】
・少人数学級の推進
・保幼小中の連携 教員の人事交流・町学校教育研究協議会・学びと指導の創造事業(北条小中)
・レインボープラン(大栄小中・中央育英高校)
・同日公開参観日の実施・認定こども園、保育所での半日保育体験(第2次3年計画で、中学校の教職員が全員)
・中学校での心の教室相談事業の実施
・いじめ対策のためのQ-U実施・司書補佐員を配置・特別支援教育補佐員の配置
・ICT教育活動支援員の配置・英語指導助手(ALT)の配置
・学習支援補佐員の設置(北条中)
・図書館検索システムの活用
【生涯学習課】
・青少年劇場巡回公演の実施

- 【生涯学習課 文化・スポーツ推進室】
・読み語るふるさとの偉人伝事業・アートスタート事業の活動支援・古代体験工房の実施
・青少年地域活動事業(体験事業)・中部地区少年少女の集い・青少年育成北栄町民会議実行事業
・青少年街頭補導の実施・あいさつ運動の推進
・家庭教育12ヶ条の推進
・630運動の推進
・子ども会リーダー育成
【中央公民館 大栄分館】
・放課後子ども教室(子どもほくえい塾)の実施・21世紀をつくる青少年育成事業の実施(中高サークル 夢雲 活動事業)

- 【教育総務課】
・外国語教育事業の実施
・サマースクール(夏休み中の勉強会)
・光アドバイザー招聘事業の実施

- 【教育総務課】
・学校における人権教育の推進(北条小・研究指定校2年目)
【生涯学習課 人権教育推進室】
・人権教育講演会の開催
・人権の花運動の実施
・人権同和教育小地域懇談会の開催
・人権同和教育事業所研修の実施
・人権同和教育推進指導員、地区推進員等の研修
・部落解放文化祭の実施
・小中学生の地区学習会の開催
・隣保館、児童館の講座・教室等の開催

- 【生涯学習課 文化・スポーツ推進室】
・社会教育講演会の開催(まぐじ文化講演)
・生涯学習出前講座提供事業

- 【生涯学習課 文化・スポーツ推進室】
・民俗芸能の伝承事業・歴史文化探訪ウォークの開催・町民音楽祭の開催
・歴史民俗資料館企画展示事業・北栄ふるさと検定の実施・文化財保護対策事業
・巡回展示館の開催・ボランティアで守る文化遺産事業
・すいか・ながいも健康マラソン大会の実施(第25回記念大会)
・ウォーキングのまち北栄町推進事業
・訪問型ニュースポーツ体験事業(おじゃまします！スポーツ推進委員です)
・指定管理者北栄スポーツクラブによる施設管理及び各種スポーツ大会の実施(町民運動会、町駅伝、元旦マラソン&ウォーキング大会を含む)
・スポーツ県外派遣費の補助
・町スポーツ表彰の実施
・町報固定ページ(レッツスポーツ)1Pでの広報活動
・社会教育関係団体活動費補助事業

- 【中央公民館】
・公民館講座の充実(民芸実習館活用講座・シニアクラブ・男性講座・女性講座・自治会生涯学習部長研修など)
・北栄文芸の編集発行・美術展の開催・公民館まつりの開催
・由良川イカダレース大会の実施
・文化団体連絡協議会の活動支援
・指定管理者による大栄分館の管理及び各種事業の実施

- 【図書館】
・図書館まつりの開催
・講座の開催(「源氏物語を読む」・「福本和夫を語る」など)
・図書館情報システムの活用
・セカンドブックスタート事業の実施(新成人向け)

平成24年度
重点施策

主要事業

平成24年度 北栄町教育委員会の事務に関する各委員による点検評価表

(評価の観点)
 継続・単年 予算措置
 対象者、参加者 ビジョンへの貢献度
 参加者の満足度

(評価)
 A = 目標を大幅に達成できた D = 目標を一部達成できなかった
 B = 目標をいくらか超えて達成できた E = ほぼ全く達成できなかった
 C = 目標どおり達成できた

委員による事業評価

事業名	実施概要	成果と課題	総合評価	各委員の意見等
1 - 就学前教育の充実へのシステムづくり				
認定こども園における幼児教育に関する指導の実施	教育委員会による計画訪問 年2回 園内・所内研修の実施 指導主事及び保育リーダーによる訪問指導 県教委による要請訪問の実施 年1回	実施済 前期計画訪問 5月21日～31日 北条こども園、由良こども園、大谷保育所、大誠こども園 保育参観(全学級)、園経営や研究の取り組みについて説明・懇談 各園ごとに研究主題に沿って園内・所内研修を進めている。要請があれば、指導主事が参加し、指導助言を行っている。 県教委・県子育て応援課による要請訪問に、できる限り同行し、指導助言を行った。 <課題> 園内・所内研修の現状や課題を把握し支援していくこと 後期計画訪問 10月24日～11月8日 北条こども園、由良こども園、大谷保育所、大誠こども園 保育参観(全学級)、園経営や研究のこれまでの取り組みの状況について説明・懇談	C	認定こども園制度導入1年目のため、まだまだ解決する課題がある。 計画訪問での指導・助言は必要である。 課題は、園長会で共通理解し解決していくことが大切である。
1 - 家庭教育の充実				
子育て学習講座の実施 (全こども園と保育所)	家庭教育の充実を図るために、町内8施設(保育所・こども園)で実施する。内容は、基本的な生活習慣の定着、親子のコミュニケーションのとりかた等。 通年実施 各施設1～2回程度	実施中 活動計画に沿って実施中 12月28日現在、8園で開催。 参加人数 = 390人 [平成23年度との比較] 実績として14回実施で延べ462人参加	C	子育ての参考となる講座であり、保護者にはぜひ参加してもらいたい。 不参加の保護者に対し、いかに伝えるのが課題である。
家庭教育12ヶ条の推進事業	基本的な生活習慣の定着に向けチラシ配布等の啓発に加え、家庭や学校での取り組みを働きかける。 保護者会・PTA総会・子育て講座・広報誌紙面等で周知。	実施中 家庭教育12カ条カレンダーで通年啓発。 保護者会・PTA総会・子育て学習講座でチラシ配布。 広報誌で毎月コーナー啓発。 [平成23年度との比較] 平成23年度平成24年度カレンダーは啓発手法としてカレンダーを作成し、子育て家庭に配布した。	C	2年前の平成23年度評価「D」からの改善点はコスト削減以外に何があるのか。大きな変更はないのではないか。 (回答)基本的な生活習慣の定着は重要であることからカレンダーやチラシにより、保護者会、PTA総会など様々な機会をとらえ啓発してきた。 引き続き12カ条のカレンダーを活用し、基本的な生活習慣の定着を図ってほしい。 ただチラシを見てもらうのではなく、行動に移してほしい。(配布することも必要なことである。) 親子に周知し、心にインプットしてほしい。
1 - 地域で育てる教育の充実				
同日公開参観日の実施	保育や学習の内容、環境、子どもたちの様子を知っていただくために、町内全こども園・保育所・小学校・中学校を開放する日。誰でも、好きな時間に参観することが可能 1回目 6月12日(火) 2回目 10月16日(火)	実施済 1回目 6月12日(火) 1,527人(昨年 1,072人) 地域の専門家やゲストティーチャーを迎えての授業、プールでの学習、小学校での外国語活動の様子、こども園園児と高校生の交流の様子等、子ども達の様々な学びの様子を見ていただいた。 2回目 10月16日(火) 1,315人(昨年 1,127人) 小中学校、こども園などで子ども達の様々な学びの様子を見ていただいた。	B	保護者や保護者以外の町民の参観は教員・児童生徒の刺激となり、学習意欲の増強になることが期待される。 開かれた学校の象徴として継続してほしい。

平成24年度 北栄町教育委員会の事務に関する各委員による点検評価表

(評価の観点)
 継続・単年 予算措置
 対象者、参加者 ビジョンへの貢献度
 参加者の満足度

(評価)
 A = 目標を大幅に達成できた D = 目標を一部達成できなかった
 B = 目標をいくらか超えて達成できた E = ほぼ全く達成できなかった
 C = 目標どおり達成できた

委員による事業評価

事業名	実施概要	成果と課題	総合評価	各委員の意見等
2 - 地域との連携を深め特色ある教育活動の推進				
職場体験学習(ワクワク)	職場体験を通して、働くことの楽しさや厳しさを学ぶことで今後の進路について考えようとする態度を養う。 大栄中学校 2年生 60人 期日・期間 9月中 TCC等多くの事業所を予定 北条中学校 2年生 78人 期日・期間 7月中 TCC等多くの事業所を予定	実施済 実施概要 ・北条中学校 7月5日～10日(4日間) 78名 37事業所(昨年23事業所) ・大栄中学校 9月18日～21日(4日間) 58名 28事業所(昨年23事業所) 保護者に新たな事業所を紹介してもらったり、商工会へ協力を要請したりして、事業所の拡充に努めた。	C	・平成23年度評価「D」の指摘から事業所の開拓により取り組み事業所の増となったが、評価は「2段階」上がっていないのではないかと。 ・過去の評価もあり、事業所を増加したことは良かった。 ・大変良い取り組みである。 ・せっかく取り組む事業であるので、事業所への生徒に対する対応の仕方、生徒への事前の目的意識を明確にし、有意義に取り組んでほしい。
サマースクール(夏休み中の勉強会)	1. ねらい ・夏休みにおいて学習習慣を継続させるとともに、講師のアドバイスや指導を受けることで学習内容や学習方を学び、意欲を持って学習にのぞめるようにする。 ・地域の人とふれあうことで、地域の一人としての自覚を深めるとともに、地域の人が講師として指導される様子から、自らの生き方についても考える機会とする。 2. 対象・期日 ・小学校児童40名、夏休み中の10日間	実施済 実施概要 ・北条地区 中央公民館2階大研修室 児童40人 指導者4人 ・大栄地区 図書館2階研修室・AV室 児童90人 指導者5人 ・夏休み期間中の10日間(7月24日から8月8日の土・日・月曜日以外)実施 延べ出席児童人数 774人(昨年 334人) 児童は、各自で課題を準備し、落ち着いて取り組んだ。地域の指導者9名(大学生1名を含む)は、児童の質問に対し、答えを教えるのではなく、答えを導く方法や考え方を助言した。 2年目の取り組みで、昨年度より参加児童数は、ほぼ倍増。会場の確保が課題である。	B	・平成23年度評価「D」と比較し内容が改善されている。 ・指導者の数が増加している。 ・大変良い取り組みである。 ・多くの児童が楽しみに通っているように感じた。 ・スクールバスは活用していたのか。 (回答)スクールバスでの送迎は行っていない。保護者の送迎としている。
ゲストティーチャーの招聘(地域人材の活用)	・大栄中学校 運動部外部指導者(4名) 1年生社会人講師 ・北条中学校 運動部外部指導者(4名) ・大栄小学校 クラブ活動の指導 ・北条小学校 11月22日(木) 「ほうじょう子ふれあいフェスティバル」 ・フラワーアレンジメント ・わらから作るしめ縄 ・勾玉づくり、白玉だんごづくり など マンガイラスト教室の開催 (県内在住の漫画家)	実施中 [大栄中] 柔道、バレー、卓球、野球(4種目) [北条中] ソフトボール、卓球、野球、バドミントン(4種目) [大栄小] マンガイラスト教室: 米子市 寺西講師 [北条小] 24講座(新規5講座) 地域24人参加 地域の人たちと接し、地域との交流を図っている。 専門分野における講師、指導者を招へいし、より専門的に取り組み、充実した活動としている。	B	・平成23年度よりゲストティーチャーの拡充が図られ、事業効果のアップがみられる。 ・外部から指導者を招き入れることは、児童に対しそれぞれの分野で向上することができるため良い。 ・部活動は教育活動の一環で全員加入の位置づけか。 (回答)学習指導要領の改訂により部活動は教育活動に位置付けられた。両中学校とも全員加入としている。 ・小学校のフェスティバルはたくさんの指導者がいるが、中学校の部活動は専門性がない場合ノウハウなく顧問の教諭が当たっている。地域には指導者もいるため活用があると良い。 ・種目・人数の枠があるかわからないが、地域には良い人材がいるので活用してはどうか。 (回答)運動部活動指導者事業は、国(10/10)・県(1/2)の補助事業を活用し行っている。今後、単町費でどれだけ拡充できるかは要検討である。
2 - 町の自然や歴史に触れ合えるイベントの開催				
歴史文化探訪ウォークの実施	【目的】北栄町内の歴史、文化財、文化芸術を自らの足で歩き、知ってもらう事により、郷土愛の醸成を図る 【期日】平成24年10月 日(日)午前9時から 【内容】町史記載の歴史を訪ねるコース(3k程度) 【募集定員】25名 4年目 通算6回実施	実施済 日時:10月14日(日) 場所:日置黙仙墓所～北条八幡宮を巡る 参加人数:41名 日時:11月18日(日) 場所:郷土の芸術コース 参加人数:34名 郷土の歴史・文化を歩いて訪ねて郷土を知る事で、郷土愛の醸成を図った。 [平成23年度の比較] 昨年は文化ウォークと体育振興ウォークは分けて実施したが、24年度は文化・歴史・体育を連携したウォークを実施した。	C	・ウォーキングのまち北栄町推進事業のコースと連携し、歩く距離は短いですが、歩くだけではない、目的の違うウォーキングとすることで変化があって良い。
ウォーキングのまち北栄町推進事業	【目的】一昨年作成した、北栄てくてくウォーキングマップを活用し、気軽に取り組めるウォーキングで、運動人口の裾野の拡大を図る 【期日】平成24年4月～11月の間で6回実施 【時間】午前9時から始め午前中に終了 【内容】マップ11コースの中から今年度は残5+1コースを歩く 【募集定員】定員なし 参加者には毎回参加缶バッジ有	実施済 4月から11月で6回開催。 延べ276名が参加 由良宿看板探訪コース すいか長いも名産地コース 国重要文化財と神社社叢コース コナンオブジェ探訪コース 北条八幡宮と黙仙禅師墓所コース 郷土の芸術コース [平成23年度の比較] 昨年は文化ウォークと体育振興ウォークは分けて実施したが、24年度は文化・歴史・体育を連携したウォークを実施した。	B	・運営体制の改善がみられる。 ・種目の選択の幅が広がっている。 ・可能であれば、歴史文化探訪ウォークと事業を1本化してもいいのではないかと。 ・参加者の意見はどうだったのか。 (回答)特にアンケートは行っていないが、好評であったとの意見もあった。

平成24年度 北栄町教育委員会の事務に関する各委員による点検評価表

(評価の観点)
 継続・単年 予算措置
 対象者、参加者 ビジョンへの貢献度
 参加者の満足度

(評価)
 A = 目標を大幅に達成できた D = 目標を一部達成できなかった
 B = 目標をいくらか超えて達成できた E = ほぼ全く達成できなかった
 C = 目標どおり達成できた

委員による事業評価

事業名	実施概要	成果と課題	総合評価	各委員の意見等
2 - 地域の教育力の向上を目指す取り組み				
地域子ども教室(子どもほくえい塾)の実施	【目的】地域の子もたちを地域の大人が見守り、育て、ふるさとに愛着をもつ健全な青少年を育成し、地域の大人たちのこれまでの生涯学習成果を子どもたちに伝承する。 【期日】平成24年4月～平成25年3月 【時間】週末・長期休業中等 【内容】体験活動 H23実績:37事業・開催回数154回・参加人数1,800人・指導者人数:681人	実施中 活動計画に沿って実施中 (12月28日現在) ・実施回数148回 ・参加人数:児童1,160人 保護者 527人 指導者 572人 【平成23年度の比較】 H23実績:37事業・開催回数154回・参加人数1,800人・指導者人数:681人	C	・北栄町全体で見ると大栄分館の事業委託であり北条地区は参加しにくい。 ・参加児童に地域の大人が今まで培ってきた技能・技術を伝承することはありがたいことである。 ・引き続き継続してほしい事業である。
青少年地域活動事業(体験事業)	【目的】学校外での体験活動の機会や子どもの居場所を提供する事により異年齢間の交流や、自ら学び考える力を育成し、集団の中で人を思いやる心やコミュニケーション力を育む。 【期日】GW期間中・長期休業中等 【内容】GWのお楽しみ講座 ・中部地区少年少女のつどい ・子どもの学び力アップ事業(夏休み等の長期休業中実施)	実施中 計画に沿って実施中 ・GW期間中……終了(44人) ・長期休業中(夏休み)……終了(46人) ・中部地区少年少女のつどい……終了(町:小20人、ボランティア:中2人、高4人)(参考:中部:小72人、中高8人) ・クリスマスリースつくり(12月実施)29人(今後) ・春休み期間中活動(3月末) 【平成23年度の比較】 H23実績:5事業・開催回数16回・参加人数181人	C	・良い事業とは感じるがより多くの参加ができるような取り組みが必要である。 ・中学・高校生のメンバーが固定化しており、世代間の継承が困難となるのではとの懸念がある。 ・参加人数が増加している。 ・休み中の体験学習の場が提供されることは良いことであり継続を望みたい。 ・内容が固定化してきているので検討されてはどうかと考える。
3 - 保・幼・小・中の連携の充実				
教員の人事交流	小学校と中学校との間の人事交流 大栄中学校 大栄小学校 現在も継続 西田真由美先生(大栄中) ねらい 教職員の意識改革 指導方法の改善 連携推進	実施中(H23に引き続き2年目) 指導方法及び教職員の意識改革に取り組んでいる。 今後、「教職員の意識改革」、「指導方法の改善」、「小中連携」に対する取り組みについて、報告・研究を実施する予定。	C	・現在1名の交流であり人事交流を図っているとは言い難いのではないかと。(回答)この成果は小中連携の取り組みとあわせて全校教員へ波及させたいと考えている。 ・一方では教職員の意識改革に一役かっており良い。
町学校教育研究協議会	北栄町学校教育研究協議会 目的:町立こども園・小学校・中学校が相提携し、幼児、児童、生徒の豊かな人間性と確かな学力を育て、本町教育の充実発展に努め、併せて関係諸団体との緊密な連携を図ることを目的とする会。 構成:町立こども園・小学校・中学校の教職員 町からの補助金 150,000円	実施中 ・4月に総会実施。各部会で事業実施中。 ・7月30日に全体研修会を実施した。上越教育大学赤坂真二准教授を招聘し、学級づくりについて研修した。 ・各部会での事業を実施中	C	・特に意見なし。
レインボープラン(大栄小中・中央育英高校)	大栄小中・中央育英高校連携 事業 【目的】:同じ丘に大栄小学校・大栄中学校・鳥取中央育英高等学校があるという立地環境を活かし、小中高等学校が連携する中で、一人ひとりの児童生徒の発達を上級学校へと繋げると共に、進路意識の向上及び教職員の他校種理解を深めることを通して、学校が抱える共通の諸課題(学校不適應への対応、教科指導の一貫性、人権教育・特別支援教育の充実等)の解決策を見出す。	実施中 ・活動計画に沿って実施中 ・10月 大栄小学校学習発表会で大栄中学校吹奏楽部が演奏 ・11月 鳥取中央育英高合唱部(吹奏楽部)が大栄中学校文化祭で合唱、演奏 ・11月 大栄中学校3年生が鳥取中央育英高で体験授業	B	・平成23年度と比較して所在学校間のクロス実施も取り組んでいる。 ・とても良い交流であり子どもたちが刺激を受けている。 ・大栄小6年が大栄中の文化祭に行くことは日曜日開催であるので無理なのか。(回答)兄弟姉妹で訪問している方はあるが、開催日の曜日のこともあり現状では学校単位での参加は困難である。

平成24年度 北栄町教育委員会の事務に関する各委員による点検評価表

(評価の観点)
 継続・単年 予算措置
 対象者、参加者 ビジョンへの貢献度
 参加者の満足度

(評価)
 A = 目標を大幅に達成できた D = 目標を一部達成できなかった
 B = 目標をいくらか超えて達成できた E = ほぼ全く達成できなかった
 C = 目標どおり達成できた

委員による事業評価

事業名	実施概要	成果と課題	総合評価	各委員の意見等
ドリームプロジェクトX (北条小・中)	北条小中連携 事業 テーマ 9年間を見通した、指導・学びの連続性のある小中連携 ～夢・希望に向かって、高め合う北条の子ども～	実施中 ・活動計画に沿って実施中 ・北条からつきょうレンジャー(読み聞かせ)の北条こども園への訪問 ・10月 北条小学校学習発表会で北条中学校吹奏楽部が演奏 ・10月 北条小・大栄小の3年生の交流会の実施 ・11月 北条小5年生、倉吉総合産業高校との家庭科交流学習の実施	C	・平成23年度と比較して所在学校間のクロス実施も取り組んでいる。 ・良い交流である。 ・北条小6年が北条中に体験学習に行くことは難しいか。 (回答)学校単位での交流は現時点では困難であるが、教員の授業指導交流は取り組んでいる。
学びと指導の創造事業 (北条小・中)	【事業の目的】 ・児童生徒の学習意欲の向上及び活用する力の向上 ・小中連携を生かした教師の授業力の向上 【方法】 出前授業・授業公開・授業研究会・外部講師招聘による 校内研究会の実施など	実施中 ・県実施の事業でもあり、研究主任研修会に参加。 ・5月11日宇都宮教育大学松本教授を招聘し、授業研究会を実施。 ・11月 北条小学校で研究授業 " 北条中学校で研究授業	C	・授業研究会の効果が、教師の授業力の向上に役に立ったのか。目に見える形ではどうだったのか。 (回答)児童生徒から1学期・2学期にアンケートを実施し、その分析の中で、アンケート項目「授業が分かりやすくなったか」の回答が「増加」してきている。教員とおし教え合うことで改善されていると考える。アンケートを公表することも重要である。そのことで教員の気づきができる。一方で教員が委縮しないように取り組むことも必要である。
-3 いじめ・不登校問題に対する学校の危機管理体制の充実				
中学校での心の教室相談事業の実施	・生徒たちが抱えている悩みやストレス等を軽減するため、心の教室相談員を北条中学校並びに大栄中学校に配置し、生徒が気軽に相談したり、安心して学校生活がおくれたりするような環境を提供するもの。 ・相談員は、概ね週3日、1日当たり4時間、中学校に勤務する。	実施中 [大栄中]川本美保相談員 [北条中]小原孝夫相談員(8月末) 野田恵相談員(9月～) 週おおむね3日、1日当たり4時間勤務 生徒の相談を受け、生徒と教職員との橋渡しをするなど、生徒の悩み、ストレス等の軽減に努めている。 利用状況 [大栄中]1日10人程度の来室 [北条中]9月以降 7人(具体的な相談人数)	C	・心の教室は必要と考えるが、生徒の相談は解決できるのか。 ・話を聞けばいいだけのものか。 ・改善の兆し等状況が分からない。 ・教職員に橋渡ししているのか。 (回答)相談室に行く生徒は多数ある。解決ありきではなく、生徒の感じていることを聞いてもらう場としての役割、教員への橋渡しの役割をしている。心の相談員のほか、スクールカウンセラー週1回6時間を設置している。これは、生徒のみならず、保護者にも対応している。 ・相談の件数や解決が重要ではなく、保護者にとっては、子どもたちが学校に行けることが大切なことである。 ・委員共通の考えは、相談する場を設けることが子どもにとって必要なことである。
いじめ対策のためのQ-U実施	QU検査の実施(小学校3～6年、中学校全学年) 各小学校・中学校 2回実施	実施中 1学期に小学校3年～中学校3年までの児童生徒にQ-Uを実施した。その結果を、学級担任だけでなく、複数の学年担当教員で分析し、子どもたちの学校生活での満足度と意欲、学級集団の状態を把握し、生徒(児童)理解に役立てた。 県事業(緊急追加事業)でハイパーQ-Uを実施(小学校1年～中学校3年までの児童生徒) 北条小は3年生～	C	・Q-UやハイパーQ-Uを実施、分析し、学級集団の状況を把握した。
要保護児童対策地域協議会の取り組み	虐待を受けている児童をはじめとする要保護児童の早期発見や適切な対応を図るために、関係機関が当該児童に関する情報や支援についての考え方を共有し、適切な連携のもとで対応して機関として設置 (主管課:福祉課)	実施中 ・第1回要保護児童対策実務者会(6月27日) 要保護児童について今後の対応・方針について話し合った。 ・必要に応じて個別支援会議を開催し、当該児童に関する情報を関係者が共有し、今後の対応を話し合った。 ・第2回要保護児童対策実務者会(12月10日)	C	・要保護児童の早期発見と適切な対応が求められるため、要保護児童対策地域協議会に期待されている。

平成24年度 北栄町教育委員会の事務に関する各委員による点検評価表

(評価の観点)
 継続・単年 予算措置
 対象者、参加者 ビジョンへの貢献度
 参加者の満足度

(評価)
 A = 目標を大幅に達成できた D = 目標を一部達成できなかった
 B = 目標をいくらか超えて達成できた E = ほぼ全く達成できなかった
 C = 目標どおり達成できた

委員による事業評価

事業名	実施概要	成果と課題	総合評価	各委員の意見等
4- 学校教育の充実				
少人数学級の推進	児童・生徒へのきめ細やかな指導を充実させ、基礎学力の定着を図るとともに、基本的な生活習慣の定着を図るため、教職員を次のとおり県基準と町基準に基づき配置した。 小学校 1・2年生 30人学級(県基準) 3・4年生 33人学級(町基準) 5・6年生 35人学級(県基準) 中学校 1年生 33人学級(県基準) 2・3年生 35人学級(県基準)	実施中 ・北条小学校 2年 2 3学級(73人)県基準 3年 2 3学級(69人)町基準 ・大栄小学校 2年 2 3学級(76人)県基準 6年 2 3学級(74人)県基準 ・北条中学校 2年 2 3学級(78人)県基準 ・大栄中学校 1年 2 3学級(70人)県基準	B	・少人数学級を推進している。
ICT教育活動支援員の配置	・児童生徒の情報活用能力の向上や授業効果の高い情報機器を利用した授業推進を図り、もって学力向上を図り、併せてホームページなどで学校情報の提供を推進するため、全小中学校に1名づつICT教育活動支援員を配置。 ICTとは Information and Communication Technology の略(情報通信技術)	実施中 小中学校各1名配置 週5日8時間勤務。 各授業における情報機器の活用補助や学校ホームページの更新など学校における情報機器の活用についてサポートしている。	B	・教員が対応しにくい専門的な情報機器の活用は支援員が必要である。
4- 特別支援教育の充実				
特別支援教育補佐員の配置	・特別支援学級には、異学年の児童生徒が在籍し、教科の進度も異なる。補佐員を配置することで、個別指導が可能になり、個に応じたきめ細かい支援が可能になり、児童生徒への効果も大きい。このため、全小中学校に1名づつ特別支援教育支援員を配置する。	実施中 週5日8時間勤務。 特別支援学級のみならず、通常学級における個別の支援を要する児童生徒に対し支援を行っている。 学校生活及び学習に対する補助的な支援を行っている。	B	・とても評価している。 ・個別指導の必要な児童生徒にとっては補佐員は必要であり、適切な支援が求められている。 ・級外教員等の配置等からみても各校1名への補佐員配置評価できる。きめ細かな指導を考えれば人数を増やす必要があるのではないか。 (回答)平成25年度小学校新入学の中には病気等により個別に配慮する児童が多数あるため、特別支援教育補佐員の1名増員を要求している。
5- 生涯学習の推進				
社会教育講演会の開催(宝くじ文化講演)	【目的】全町民を対象とし講演会を開催し生涯学習を振興する。 【日時】平成24年10月27日(日) 【場所】大栄農村環境改善センター 【講師】倍賞千恵子	実施済 9月1日から整理券(1人2枚限定)500枚の引き換えを実施。 昨年1人3枚限定で配布したため、死蔵チケットが発生したと思われるため、2枚に限定した。 【平成23年度の比較】 当日入場者数:391人	C	・平成23年度評価「D」から入場者数が現状維持程度に回復したことは評価できる。 ・講演を記期待が入場できない人に対し聞かれるよう配慮してはどうか。 ・事業の改善を評価する。継続して改善してほしい。
生涯学習出前講座提供事業	【目的】「いつでも・どこでも・だれでも」生涯学習活動が出来るよう、学習情報・機会の提供を行い、地域や団体が主体的に学習出来る体制をつくることで、学習への意欲の向上を図る。 【日時】通年 【内容】生涯学習出前講座62講座を提示し、提供する。	実施中 12月28日現在28講座開催済み(予約1件あり)。(昨年年間実績9講座) 講座参加人数:796人 自治会長会、生涯学習部長研修、部落座談会等で周知し活用促進を行っている。 【平成23年度の比較】 H23実績:9(8)講座・参加人数315人	C	・企画が62講座で1/8時点で32講座の実施となっている。ニーズなし:啓発、ニーズあり:知りたいなどニーズを把握してはどうか。 (回答)自治会を対象としていることもあり、幅広い講座メニューを用意している。講座の見直しにもなるためニーズの把握はしたいと考える。 ・実施講座が昨年より増加し、参加人数も倍以上となったことは評価できる。 ・来年度も増加することを期待する。 ・未消化講座があるので、改善の余地はある。

平成24年度 北栄町教育委員会の事務に関する各委員による点検評価表

(評価の観点)
 継続・単年 予算措置
 対象者、参加者 ビジョンへの貢献度
 参加者の満足度

(評価)
 A = 目標を大幅に達成できた D = 目標を一部達成できなかった
 B = 目標をいくらか超えて達成できた E = ほぼ全く達成できなかった
 C = 目標どおり達成できた

委員による事業評価

事業名	実施概要	成果と課題	総合評価	各委員の意見等
5- 人権同和教育の推進				
人権の花運動の実施	【目的】花を育てるを通して、命の尊さを学び、豊かな心、思いやりの心を養う。 【日時】5月18日(金) 北条小学校、大栄小学校にて人権擁護委員6名が「人権の花」の苗600株を贈呈した。	実施済 5月18日(金)大栄小学校・北条小学校に於いて、人権擁護委員6名が「人権の花」苗600株を贈呈。 児童が自覚をもって世話をし、協力し合って育てる心や思いやる気持ちが育っている。(学校の報告)	C	・活動は評価できる。 ・苗より種からという意見も取り入れてほしい。 ・以前から経費や趣旨の面から「種から」との意見を事業主体へ伝えてほしいと言っていたが、伝わっているのか。 (回答)法務局には内容は伝えている。法務局は県下統一の取り組みであるため対応できないと返答している。引き続き要望していきたい。
人権同和教育小地域懇談会の開催	【目的】町内全63自治会で自主的、主体的な学習活動として小地域懇談会を実施することにより「身の回りにおける人権課題」に気づくようみんなで人権感覚を高めていく 【日時】9月～11月中 【場所】各自治会館	実施済 9月5日別所を皮切りに11月27日の期間で実施。 63自治会で1008名が参加。 懇談会では、主にビデオ視聴の跡幅広い人権問題、地域の問題などが話し合われた。 [平成23年度の比較] H23実績:63自治会・参加人数1,037人	D	・平成23年度評価「D」よりさらに参加者が減っているため、状況が悪くなっていると感じている。 ・まず会場に来てもらう必要がある。 ・話さないといけないという状況＝参加しにくいとなっている。 ・参加しない理由の中にもある、話すのが苦手な人に手立てが必要である。 ・参加しにくい雰囲気がある。過去は意見を言っていたが意見が言えなくなっている。このままでは今後も参加者は減っていく。 ・ビデオ視聴、話を聞くだけでも良いのではないかと、意識が上がっていくのではないかと。 (回答)部落差別問題が大きく取り上げられている。人権関係の計画を見直し、「人権同和」を「人権全般」とすることとしている。参加しやすい事業へと見直していきたいと考えている。
小中学生の地区学習会の開催	【目的】人権学習・教科学習・仲間づくりに取り組むことで部落差別をはねのけ、差別に立ち向かう力を養うため、同和地区の小・中学生を対象に各小・中学校で年34回程度を実施する。 【日時】大栄小・中(木)、北条小(金)、北条中(水) 【場所】大野児童館、北条文化会館、大栄文化センター	実施中 ・活動計画に沿って実施中 ・12月28日現在 大栄小＝24回開催:延べ430人参加 北条小＝31回開催:延べ205人参加 大栄中＝30回開催:延べ142人参加 北条中＝24回開催:延べ249人参加 [平成23年度の比較] H23実績 大栄小＝35回開催:延べ601人参加 北条小＝39回開催:延べ280人参加 大栄中＝38回開催:延べ249人参加 北条中＝33回開催:延べ340人参加	B	・地区学習会のなくなる社会になればいいが、まだまだ無理なのか。 (回答)同和对策関係の法律は失効している。今後は町全体で人権全般について幅広く学習こととしている。子どもたちには差別に負けない力、差別をしない心を身につけるよう学習の機会を持つこととしたい。 ・差別に立ち向かう力を養ってほしいと同時に差別をしない子どもを育てることも必要である。
部落解放文化祭の活動補助金	【目的】日常の学習や交流活動の成果を発表する解放文化祭の実行委員会へ補助金を交付し活動を支援する。	実施済 12月8日～10日開催。 実行委員会を4回開催。 テーマ「考えよう相手の気持ち見直そう自分の行動～みんなの幸せのために～」 テーマ応募数:501点 参加者数:893人 出品作品点数:1091点 [平成23年度の比較] H23実績:参加人数1,115人、作品点数950点	C	・関係者のみで一般町民等の参加は少ない。 ・参加者数が減少している。 ・この事業の位置づけはどうなるのか。 (回答)「人権同和」から「人権全般」と取り組みしていくこととしており、地域での活動であれば補助事業はなくなる。町としては人権講演会へシフトしたいと考えている。
5- 人権尊重まちづくりの推進				
人権フェスティバルの開催	【目的】人権尊重社会の実現をめざすため、地域社会が人権問題に対して正しい認識を深める場を提供し、広く人権尊重意識の普及啓発を図る。 【日時】11月23日(金)祝日 【場所】大栄農村環境改善センター 【内容】実践・体験発表 人権トーク&コンサート等	実施済 11月23日開催。 参加者数:168人 ホールでトーク&コンサート「エスペランサ」、高校生・社会人の意見体験発表、ロビーで小規模作業所物販、キーホルダー作り、会議室で人権相談等実施。 [平成23年度の比較] H23実績:参加人数301人	C	・とても良い取り組みなのに参加者が少ないのはとても残念である。

平成24年度 北栄町教育委員会の事務に関する各委員による点検評価表

(評価の観点)
 継続・単年 予算措置
 対象者、参加者 ビジョンへの貢献度
 参加者の満足度

(評価)
 A = 目標を大幅に達成できた D = 目標を一部達成できなかった
 B = 目標をいくらか超えて達成できた E = ほぼ全く達成できなかった
 C = 目標どおり達成できた

委員による事業評価

事業名	実施概要	成果と課題	総合評価	各委員の意見等
人権同和教育事業所研修の実施	【目的】事業所経営者や従業員の方で人権教育講演会や懇談会等になかなか参加しにくい方へ少しでも人権問題に関心を持っていただくため事業所へ依頼し、こちらから出向き研修会を実施する。	実施中 受講希望事業所へ出向き研修を実施 12月28日現在8事業所で開催。 336人参加 【平成23年度の比較】 H23実績：9事業所・参加人数525人	C	・事業所で研修してもらうことはありがたいことである。 ・年1回程度は時間を取ってほしい。 ・事業所を増やしてほしい。 (回答)この事業も「人権全般」の取り組みへシフトする。実施困難な事業所には「人権フェスティバル」等への振り替え実施依頼をしたいと考えている。取り組み内容の振り替えは可能である。
6- 地域住民の健康増進				
指定管理者北栄スポーツクラブによる各種スポーツ大会の実施	【目的】多様化するスポーツ・レクリエーションに対応すべく、社会体育施設の管理、各種スポーツ大会の開催を指定管理委託し、「誰でもがいつでも、どこでも、気軽にスポーツに親しめる環境づくりを行う」	実施中 ・活動計画に沿って実施中。 実施済大会名 北条地区春季野球大会(雨天中止)、大栄ナイター野球リーグ、北条ナイター野球リーグ、第3回県シニア軟式野球交流大会、夏季グラウンド・ゴルフ大会、第6回北栄町ゴルフ大会、第58回東伯郡民体育大会、北条地区夏季野球大会、親子水泳教室、自然体験セミナーin隠岐、ナイトウォークin北栄、大栄地区ソフトボール大会、北条地区ソフトボール大会、北栄町グラウンド・ゴルフ大会、中部地区駅伝競走大会、カヌー教室、北栄町町民運動会(雨天中止)、第7回北栄町ゴルフ大会、秋季野球大会、北栄町ナイターリーグ交流大会、米子・鳥取間駅伝競走大会、北栄町駅伝競走大会、北条地区女子バレーボール大会、大栄地区バレーボール大会、ポウリング大会、北栄町剣道大会、北栄町バドミントン大会 参加人員：延べ6,289人 社会体育施設管理：12施設管理 委託体育事業は計画どおり実施し、旧町単位のスポーツ大会も一本に統一して実施するなど町の体育振興の調整が図られている。 【平成23年度の比較】 委託事業参加者実績：延べ8,766人 社会体育施設管理：12施設管理	C	・多くの大会実施、運営を評価する。 ・参加者数の減少が残念である。 ・旧北条と旧大栄を統合し、同一の大会をすることは合併した意義があり良い。 ・今後も一本化をしてほしい。 (回答)合併していない種目も平成25年度：ソフトボール、平成26年度：バレーボールを統一し完了となる予定である。
歴史文化探訪ウォークの実施	【目的】北栄町内の歴史、文化財、文化芸術を自らの足で歩き、知ってもらう事により、郷土愛の醸成を図る 【期日】平成24年10月 日(日)午前9時から 【内容】町史記載の歴史を訪ねるコース(3k程度) 【募集定員】25名 4年目 通算6回実施	実施済 日時：10月14日(日) 場所：日置黙仙墓所～北条八幡宮を巡る 参加人数：41名 日時：11月18日(日) 場所：郷土の芸術コース 参加人数：34名 郷土の歴史・文化を歩いて訪ねて郷土を知る事で、郷土愛の醸成を図った。 【平成23年度の比較】 昨年は文化ウォークと体育振興ウォークは分けて実施したが、24年度は文化・歴史・体育を連携したウォークを実施した。	2-	で評価
ウォーキングのまち北栄町推進事業	【目的】一昨年作成した、北栄てくてくウォーキングマップを活用し、気軽に取り組めるウォーキングで、運動人口の裾野の拡大を図る 【期日】平成24年4月～11月の間で6回実施 【時間】午前9時から始め午前中に終了 【内容】マップ11コースの中から今年度は残5+1コースを歩く 【募集定員】定員なし 参加者には毎回参加缶バッジ有	実施済 4月から11月で6回開催。 延べ276名が参加 由良宿看板探訪コース すいか長いも名産地コース 国重要文化財と神社社叢コース コナンオブジェ探訪コース 北条八幡宮と黙仙禅師墓所コース 郷土の芸術コース 【平成23年度の比較】 昨年は文化ウォークと体育振興ウォークは分けて実施したが、24年度は文化・歴史・体育を連携したウォークを実施した。	2-	で評価

平成24年度 北栄町教育委員会の事務に関する各委員による点検評価表

(評価の観点)
 継続・単年 予算措置
 対象者、参加者 ビジョンへの貢献度
 参加者の満足度

(評価)
 A = 目標を大幅に達成できた D = 目標を一部達成できなかった
 B = 目標をいくらか超えて達成できた E = ほぼ全く達成できなかった
 C = 目標どおり達成できた

委員による事業評価

事業名	実施概要	成果と課題	総合評価	各委員の意見等
訪問型ニュースポーツ体験事業(おじゃまします! 体育指導員です)	【目的】従来の「来場型」のスポーツ、運動に参加しにくい人を対象に「訪問型」のスポーツ、運動指導を行い生涯スポーツ人口の裾野を広げる。 【期日】要請があれば調整の上随時 【内容】自治公民館、広場等で出来る簡易なニュースポーツを主にメニュー提示をし、募集する。 【対象】自治会老人クラブ、いきいきサロン、子ども会、親子内など	実施中 12月28日現在、16カ所で実施(昨年年間実績10カ所) ・体験人数:1,046人 (高齢者健康運動会での体操指導を含む) [平成23年度の比較] H23実績:10カ所・参加人数記録なし	C	・参加者の声が聞こえてこなかった。平成24年度参加者の把握に努める必要がある。 ・実施個所が増加し、体験人数も多くなった。
6- 公民館活動の推進				
公民館講座の充実(民芸実習館活用講座・シニアクラブ・男性講座・女性講座・自治会生涯学習部長研修)	<北条民芸実習館活用講座> 陶芸講座・会が講座を実施し民芸実習館を活用し、町民の文化・芸術活動を促進する。 <シニアクラブ> 高齢者の学習活動と社会参加を促し健康と活力と生きがいをもつことを目的として、総合学習とコース別学習(パソコン・ニュースポーツ・歌唱・習字・ゆるゆるヨガ・絵てがみ・フラダンス)を毎月行う <自治会生涯学習部長研修> 生涯学習部長を対象として、地域活動の中で自治会の果たす役割について研修を行い、自治会の公民館活動を支援するために中央公民館が情報提供や相談の機能を発揮する機会とする。 <女性講座> 心身の変化が多い時期である30歳前後から60歳までの女性を対象として、元気で美しく年齢を重ね、生き生きと暮らすための一助とし、仲間作りと地域活動への参加意識を高める。 <男性講座> 公民館との繋がりが少ない男性、特に50歳代より若い男性向けの講座を実施しリーダーを育成、公民館の活用方法を広げる。 事業内容に実践的な講座を計画し、地域活動参加へのきっかけ、意識を高める	実施中 シニアクラブは活動計画に沿って実施中。 ・全体会:4回開催 188人参加 ・総合学習:6回開催 121人参加 ・コース別学習:6回開催 578人参加 [平成23年度の比較] ・全体会:5回 297人 ・総合学習:8回 190人 ・コース別学習:10回 753人 北条民芸館活用講座・・・陶芸講座 ・第1期～2期:13人 ・第3期募集中:2月実施 [平成23年度 事業なし] 女性講座・男性講座は1月から募集開始し活動予定。 [平成23年度の比較] ・女性講座:会員数14人 4回開催 ・男性講座:会員数14人 5回開催 自治会生涯学習部長研修 ・12月3日 生涯学習部長、自治会長ほか27自治会から30人参加。 [平成23年度の比較] 31自治会から38人参加	C	・講座の種類の充実を期待する。
北栄文芸の編集発行	【目的】幅広い年齢層において文芸に親しみ、文芸の芽を醸成する場として文芸作品を投稿していただき、文芸誌を刊行する 【内容】文芸誌を 4、7、10、1月の年4回発行	実施中 文芸誌を 4、7、10月に発行し、1月に発行予定。 [平成23年度の比較] H23実績:4回発行	C	・予定どおりに文芸誌を発行している。 ・投稿者の固定化の改善が数年間見られない。投稿者を増やす意思はあるのか。 (回答)編集者は投稿者の募集をしているが増えてこない現状がある。 ・どのように伝える努力をしているのか。 (回答)編集委員がいない現状がある。募集は行っているが、投稿者がいない。投稿者の開拓が難しい。
由良川イカダレース大会の開催	【目的】由良川を手づくりイカダで下り、楽しむことにより出場者と観覧者の一体感を生み、仲間と自然の大切さ、地域住民のふれあいと連帯感を高める。 実施にあたっては、実行委員会を中心に実施する。 【日時】8月5日(日) 【場所】免許試験場跡、由良川 【内容】イカダの部・新設ゴムボートの部・コスプレの部	実施済 開催に向け実行委員会を7回開催。 大会名も募集し「北栄ゆら由良川くだり」と改称し、内容もリニューアルし実施。 大会スポンサーも24社から提供を頂き、賞金へ還元した。 参加チーム数:34チーム(イカダ・ゴムボート) 大会参加者へアンケートを実施し、結果を実行委員会で検討し、来年度へつなげる。 11月30日、参加者との意見交換会を開催し、来年度への改善点等協議。 [平成23年度の比較] H23実績:28チーム参加	C	・何とかしたいという思いが伝わり良い。 ・より多くの参加者と観覧者も楽しめるイカダレースにしてみたい。 ・工事中であったこともあるが、コースのあり方、沿道地域の参加が少なく、盛り上がり欠けている。改善が必要である。

平成24年度 北栄町教育委員会の事務に関する各委員による点検評価表

(評価の観点)
 継続・単年 予算措置
 対象者、参加者 ビジョンへの貢献度
 参加者の満足度

(評価)
 A = 目標を大幅に達成できた D = 目標を一部達成できなかった
 B = 目標をいくらか超えて達成できた E = ほぼ全く達成できなかった
 C = 目標どおり達成できた

委員による事業評価

事業名	実施概要	成果と課題	総合評価	各委員の意見等
美術展の開催	<p>【目的】優れた文化人・芸術家を多く輩出した北栄町の伝統を後世に受け継ぐため、美術展を開催し多くの美術作品を募り展示し創作活動の振興を図る。 【日時】11月3日(土)～15日(木)予定 【場所】北条農村環境改善センター 【内容】町民等を対象に9部門において作品を募集し、約2週間の会期で作品を展示する。</p>	<p>実施済 11月3日から15日までの13日間開催。入場者数は792人。出品数の増加のため、文化団体協議会、鳥取中央育英などにも出展要請するなど、呼びかけを強化し、また、新たに、工芸部門で機織りのほか、絵がみ、俳画を選考部門に新設し、出展者の掘り起こしを図り、出品点数は139点(昨年102点)。 [平成23年度の比較] H23実績:出展数102点、入場者数656人</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 実施への努力を評価したい。 入場者及び出品数が増加している。
公民館まつりの開催	<p>【目的】公民館活動の発表と鑑賞を通して、町民が集い交流をし親睦を深め、よりよい地域づくりと生涯学習を進める。 【日時】<作品展> 1月26日(木)～2月3日(日)予定 <芸能発表> 2月3日(日)予定 【場所】北条農村環境改善センター・大栄農村環境改善センター 【内容】作品展示と芸能等の舞台発表</p>	<p>実施済 作品展へ申し込みは255点。ふれあい芸能発表会へ申し込みは61演目。オープニングセレモニーを1月26日に北条農村環境改善センターを会場に開催。内容はハンドベル演奏、おしゃべり交流会、茶道および木工体験教室。 [平成23年度の比較] H23実績:出品数298点、演芸出場者数50組、来場者数:作品展706人・芸能大会730人</p>	C	<ul style="list-style-type: none"> 一部の人の祭りとなっている。イベントの固定となっているひとつである。 作品展、芸能発表、出品、出演者を幅広く求め、楽しみにしている人も多い。
文化教室等の成果還元活動推進	<p>【目的】文化教室活動の素晴らしさと、学んだ成果を地域に還元し、地域住民が芸術文化に親しむ機会をつくるため、各教室が講座及び展示・発表等の方法により活動を実施するための費用の助成を行う。</p>	<p>実施中 随時文化団体、教室より申請を受け、費用助成を行っている。 12月28日現在、8団体助成。 [平成23年度の比較] H23実績:19団体</p>	C	<ul style="list-style-type: none"> 地域間での工夫が必要である。 (回答)もともと北条地区での事業であったが、町内に広げたもの。大栄地区では浸透していない。 この事業に限らず、町全体の中で、合併での一体的な取り組み、PR活動の抜本改革における取り組みを再度見直し・改善する必要がある。
文化団体連絡協議会の活動支援	<p>【目的】文化団体連絡協議会員の交流、また、地域文化の振興を図るため、協議会が実施する様々な文化芸術活動に対する事業に対し費用の助成を行う。</p>	<p>実施中 年間計画により活動実施している団体へ活動補助を行う。</p>	C	<ul style="list-style-type: none"> 特に意見なし。
指定管理者まちづくりネットによる大栄分館の管理及び各種事業の実施	<p>【目的】大栄分館の管理運営業務のほか、子どもほくえい塾、中高生サークル夢雲、女性相談事業、各種講座、講演会等の事業実施。</p>	<p>実施中 活動計画に沿って事業実施中。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 多種・多彩な事業を実施して良い。
6-1 図書館活動の推進				
図書館まつりの開催	<p>【目的】文字・活字文化の日、古典の日になみ、講演会や展示、ブックリサイクル等を行い、図書館の利用促進、生涯学習の拠点となることをめざす。 【日時】平成24年11月10日(土)～18日(日)開催予定。 【場所】図書館・図書館北条分室</p>	<p>実施済 11月10日(土)～18日(日)開催。期間中の入館者延べ総数 2,455人(分室含む) 「源氏」「福本」「郷土史」「ロボット講座」などの各種講座やブックリサイクル等を実施。図書館利用促進につながった。更なるPRに努めた。 [平成23年度の比較] H23実績:期間中利用者1,788人</p>	C	<ul style="list-style-type: none"> 多数参加している。

平成24年度 北栄町教育委員会の事務に関する各委員による点検評価表

(評価の観点)
 継続・単年 予算措置
 対象者、参加者 ビジョンへの貢献度
 参加者の満足度

(評価)
 A = 目標を大幅に達成できた D = 目標を一部達成できなかった
 B = 目標をいくらか超えて達成できた E = ほぼ全く達成できなかった
 C = 目標どおり達成できた

委員による事業評価

事業名	実施概要	成果と課題	総合評価	各委員の意見等
「源氏物語を読む」講座	【目的】歴史の中で評価され、今もなお愛され続けている物語を講読することで、読書の楽しさを味わい、日本語・日本の文化を研究する。 【日時】年20回 【場所】図書館	実施中 開催計画に沿って実施中。 12月末現在、15回実施 ・参加人数:385人 【平成23年度の比較】 H23実績:延べ人数511人	C	・受講者が固定化している。 ・題材を特化した取り組みも良い。
「福本和夫を識る」講座	【目的】北栄町出身の福本和夫の生涯とその業績を識る講座を開設し、福本の成した仕事や魅力を再発見し、地域の文化財として町内外に発信する。 【日時】年1回 図書館まつりの一環として開催予定。	実施済 図書館まつりの11月11日(日)に開催。 参加者35人 「分かりやすい講座だった」と参加者から好評だった。	C	・参加しない人にはわかりにくい。 ・参加者からは好評である。PR活動にもつながってくる。
図書館情報システムの活用	【目的】図書館と北条分室、町内小・中学校の図書室とのネットワークの更なる充実を図り、資料の迅速な提供、サービスの向上に努める。	実施中 システムを活用し、資料の提供等のサービスを行っている。	C	・特に意見なし。
ブックスタート事業	【目的】地域に生まれたすべての赤ちゃんと保護者に、読みかかせの大切さを説明する。親子が絵本に触れ合う時間をもつことで、絵本に関心を持ち、読書の習慣を身につけ、図書館利用の促進を促す。 【日時】毎月1回 生後7ヶ月の赤ちゃんが対象。健康推進課と連携して行う。	実施中 毎月生後7カ月の赤ちゃん対象に実施。 12月末現在、95組へ手渡した。 【平成23年度の比較】 H23実績:112組	B	・親子さんに絵本に興味を持たせる良い機会である。
お話し会の開催	【目的】小さい頃から絵本に親しみ、おはなしに集中することで、想像力豊かな心を育むことを目的に開催する。 【日時】通年実施 ・赤ちゃん向け…第1・3(日) 午前11時～ ・幼児以上向け…第2・4(日) 午前11時～	実施中 開催計画にそって実施中。 1/31現在 赤ちゃん67人 幼児以上43人 【平成23年度の比較】 H23実績:赤ちゃん65人 幼児以上40人	C	・地域で行きにくい、行きやすいがあるのではないかと。(回答)合併前から大栄地区で取り組んでいたもので10年以上となる取り組みである。改善としては日曜日の午前とするなど検討している。 ・近いところで開催されるところはいい。 ・この会があることは良い。過去、保育所のオープンデーに参加するなどしていたが、絵本を見ること、触れ合うことは大切なことと考える。
ビデオ鑑賞会の開催	【目的】名画に触れることで心を潤し、感動を共有する機会を提供する。また、名作本に関連した映画を上映することで、図書館資料と結びつけ、利用促進を図る。 【日時】通年実施 ・子ども向け上映会 …第1・3(土) 午後1時30分～ ・日曜シネマ …第1・2・4(日) 午後1時30分～	実施中 開催計画にそって実施中。今年は国際マンガ博開催年であり、協力事業として「名探偵コナン」も上映した。 12月末現在 61回開催 ・参加人数:691人 【平成23年度の比較】 H23実績:子ども向け参加者215人 大人向け参加者 476人	C	・マンガ博もあり参加者も多かった。 ・コナンが良かったのか、マンガ博の影響が大きかったのか。(回答)町内の参加者が増えたのではないかと。上映している映画は名画が多い。 ・入場者の増加を図るためにコナンを上映することも良いことである。 ・大きなスクリーンや普段自分では入手できないものを上映することも趣旨的には良いことである。